

“ 私は米国と結婚したのです ”

～スイコ・クマガイ(米国陸軍看護婦 陸軍大佐で退官)

戦後63年の歳月、今明かされる米国看護教練生部隊の日系人女性たち

7月1日初版刊行

『第2次世界大戦を生き抜いた日系人女性たちの物語』

まもなく63回目の太平洋戦争の終戦記念日を迎えます。

この戦争は日系二世にとっても大変過酷な体験でした。特に当時10代の少女たちも父祖の国、日本と、自分の生まれた国、アメリカの狭間に立たされ、若さゆえの苦悩を強いられました。350人以上の日系の少女たちが米国看護教練生部隊に入隊します。これまで彼女たちの当時の実態は明らかにされていません。

彼女たちもいまや、80歳。19人の彼女たちが語る当時の彼女たちの青春の記録を後世に残すことは大きな意義があることではないでしょうか？いわれのない不忠を疑われつつ、苦しみの中にも明るく生きる彼女たちに私たちは、日本人のすばらしさを見るのでしょうか？それとも彼女たちのなかに、アメリカの未来を見るのでしょうか？

この本のもととなる著者の「第2次世界大戦下の二世看護婦」に関する研究は米国看護史協会から看護教練生部隊賞を受賞しました。

19人の日系米人女性たちの、人間としての青春を説き明かした書

米国民として生まれながら、根拠のない不忠を疑われて母国、米国から侮辱を受け、家族とともに苦悩の青春時代を過ごす。いたわりの精神と日系看護婦としての献身在、彼女たちの米国への忠誠心の証であった。

著者は言う。彼女たちは苦難の時代を糧に最善を尽くし、寛容の精神を私たちに教えてくれた。

すべてはここから始まった

1942年(昭和17年)2月19日:日本を祖国とする者をアメリカ西海岸地域から集団退去させ強制収容所へ

11万人もの日系人が自宅・仕事・学校からの立ち退きを強いられ、アイダホ州ミニドカ強制収容所などへ連行された。そのうちの4万人が子どもだったという。当時、高校生、または卒業してまもない若い女性たちは、いろいろなつてをたより、たくさんの願書送り、数少ない日系人を受け入れてくれる看護婦養成所を探し入所する。その後、米国看護教練生部隊の存在を知り、入隊を決めた。350人以上の日系米人女性の看護教練生にとって部隊入隊は、まさに強制収容所からの「出口」であった。

二世看護訓練生は記している。一世の親たちから、米国に忠誠を尽くす誠実な市民に育つよう教えられた。

収容所では暴動もなく問題もなかった。これは驚くべきことである。「親たちの教育のおかげで、このつらい体験、厳しい差別にもかかわらず、私たちは、米国へ身命を捧げることを信条とし、自分たちの生き方によって忠誠心を示すことが出来たのです」



・タイトル：「第2次世界大戦を生きた日系人女性たちの物語」

・出版社：株式会社バベル（バベルプレス）

・ISBN：978-4-89449-069-7

・判型：四・六判

・定価：1890 円（税込み）

ご購入はeガイア書店 <http://www.egaiasyoten.com/shopdetail/014000000008/order/>

<著者：テルマ・ロビンソンについて>

テルマ・ロビンソンは、第2次世界大戦中に彼女もまた看護教練生になり、看護の仕事をはじめた。夫が兵役から戻ると、専業主婦となって4人の子ども育てながら、看護の学位を取得するため学校に通う。修士号を取ってから仕事に復帰した。引退後は米国看護教練生部隊について初めて書かれた“Cadet Nurse Stories: The Call and Response of Women During World War ”(共著)を出版。この本の原作 “Nisei Cadet Nurse of WORLD WAR ”は、シリーズ2作目である。

この件に関するお問合せは以下にお願いします。

株式会社 バベル（バベルプレス）

広報担当：高松・藪下

〒106-6004 東京都港区六本木 1-6-1 泉ガーデンタワー 4 階

TEL：03-6229-2441 FAX：03-6229-2439 e-mail address：press@babel.co.jp

(このリリースのデジタルデータ、表紙画像データなどをお送りいたします。ご連絡ください)